

細江カトリック教会だより

新年号

〒750-0016 下関市細江町1-9-15

☎083-222-2294

☎083-222-0970

ホームページ <http://hosoechurch.sakura.ne.jp>

未来を掘り起こす

明けましておめでとうございます。皆さまの一人ひとりに、そして皆さまのご家族、親族や友人たちにとって、神さまのお導きのもとに幸せな年でありますように。

さて、私たちの細江教会も少子高齢化がしだいに深刻になり、去年は教会維持費の減少という現実にも直面し始めました。このままでは教会はしだいに衰え、やがて他の小教区との統合や合併などが必要になるかもしれません。しかし、この下関の地に福音を伝えるために、神さまはこの教会の存続をお望みになっていらっしゃると思います。福音を伝えるために、120年前の宣教師たちは教会をこの地に建てたのです。

この地の教会の未来のためには、若い世代を育て、信仰を伝えること以外には、他に道はありません。なるほど名簿の上では、細江教会にも洗礼を受けた子どもたちがいます。しかし、彼らのほとんどは教会にきていません。現代の日本社会の風潮が、それを妨げています。教会にも、子どもたちを受け入れ、楽しく信仰生活を育むための受け皿がありません。

この閉塞感を打破し、希望ある未来を掘り起こすために、白浜司教さまは今年、新たな提案をなさっています。それは、カトリックの家庭の子どもたちに初聖体や堅信の準備をさせるために、個別に子どもたちを訪ね、教理の

勉強をさせる「カテキスタ」の養成という計画です。

カテキスタとは、キリシタン時代には迫害下でも個別に子孫に信仰を伝え、教会を保った「教え方」という人々です。たぶん現代の教会でも、このような人々が信仰の継承の鍵を握るかもしれません。カテキスタは人前で旗を振るようなリーダーではありません。むしろ教会を愛し、子どもが好きで、地道に信者の子どもたちの世話をする人々です。

司教さまは、今年度から広島教区にカテキスタ養成のプログラムを始めようと望まれ、その実施チームを立ちあげられました。これまで信徒養成の実績をもつ山口島根地区の養成スタッフの数人が、その最初の任務にあたります。

それぞれの小教区は、カテキスタを勤めることのできる候補者を推薦するよう、求められています。私たちの細江教会には、どなたか志願する方がいないでしょうか。

養成プログラムは年に4回、2泊3日（費用と交通費は教区負担）で研修会を行い、聖書、教義、典礼などを学び、2年間で修了して司教さまから任命書をいただくことになっています。候補者は、①できれば65歳以下の健康な人。②教会のために謙虚に奉仕する、信頼できる人。③地道に人とかかわることのできる人。④年に4回の研修会に参加できる人（フルタイムのお勤めをしていたり、扶養家族がいる人には無理かもしれません）。自薦でも他薦で



もいいから、名乗りでてください。

これが教会の未来のために若い世代を掘り起こす、一つの突破口かもしれません。

百瀬 文晃 神父

* 天使幼稚園児が感謝の花束を。

待降節黙想会 12/10



白浜司教様をお迎えして、待降節黙想会が開かれました。テーマは「救い主を待つ心」です。

まず、「待降節」という意味のラテン語の「アドベントゥス」という言葉は、「主が近づいてくる」という意味です。地上のことはよく見えていても、霊的なことは見えていない私たち。これを見えるようにするために救い主が近づいてきます。

イエスは、私たちのために御言葉を伝えてくださり、その御言葉は、私たちを励まします。また、洗礼・堅信・聖体などの秘跡を残し、身をもって復活があることを示してくださいました。

「一コリントの信徒への手紙」15章に、「自然のいのちの身体が蒔かれて、霊の身体が復活する」とあります。死んで終わりではなく、復活があり別の世界があるのです。

ミサではパンとぶどう酒が聖変化し、どちらにも復活されたイエスがいらっしゃいます。聖体は、イエスが私たちの近くにいるために残された最高の賜物です。そしてこのミサは、ローマ法王のミサもその他のミサも本質的に同じであり、しっかり準備して与えることが重要です。

司教様は、新聞への投稿記事、日常生活での失敗も含む体験、聖書の記述、おやじギャグなどを交えながらわかりやすく、おもしろく話してくださいました。昼食後、ゆるしの秘跡にも加わってくださいました。

テゼの祈りの集い 12/1 (金)



* 「始まりから、もうひとつの始まりへ」
・・私たちは沈黙を忘れ置き去りにしています。・・・と、静かにブラザー・ディラン氏が語りかけました。沈黙のうちに祈りが
続き、テゼの歌がまた私たちの祈りを高めました。

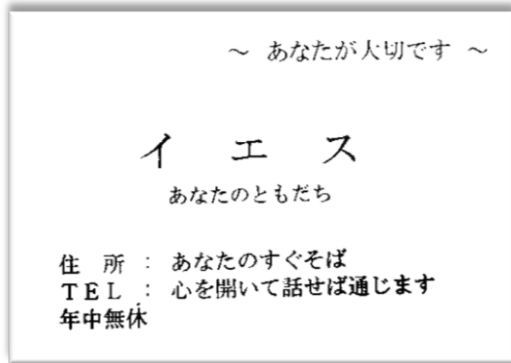


Xmas チャリティコンサート 12/2 (土)

今年は、皆さまご存じのソプラノの坂井里衣さん初め、オルガンの山崎幸子さん、フルートの足立智子さん、サクソの甲斐尚美さん、パーカッションの山根さんが共演され、主を待ち望んでいる私たちの心に、豊かな潤いが漂い、待降節に一つのプレゼントをいただいた思いです。



久保 俊夫



* 司教さまのお話の中で、この名刺のことがありました。私もこんな名刺をいただきたい。(K)

初ミサ 12/17

デイン神父様の細江教会での初ミサにあずかって



神学生として2年間細江教会に滞在され、9月23日に新司祭に叙階されたデイン神父様が、12月17日、私たちの教会での初ミサを捧げてくださいました。当日、待降節第3主日は、クリスマスの近いことを知る「喜びの主日」で、司式を共にしてくださった百瀬神父様が感謝のお言葉を添えられました。

この日のみ言葉は、ヨハネによる福音「彼（ヨハネ）は光について証しをするため、・・・」が朗読され、新司祭によるお説教も「喜びの証しをする恵み」について語られました。このミサは、私たちにとって大きな恵みであり、一足早いサンタクロースからの喜びの贈り物となりました。

召し出し、叙階にあたって、ご両親はもちろんのこと故郷の皆さま、神学生のお仲間や、指導神父様方、出会われた方々のお支えがたくさんあったこ

とと改めて思いを深くいたします。

ごミサ後のパーティーでは、参加しておられたベトナムの学生さんたちとも和やかに接しておりましたが、その笑顔が印象に残りました。

また、百瀬神父様の慈愛に満ちた微笑も安堵感と喜びがにじみ出て嬉しい気持ちが伝わってきました。

これからも、神さまの慈しみと愛を証しする司祭として、私どもを導いてくださいますように。そして、またいつの日か、この教会でミサを共にさせていただけることを楽しみに待っております。

大住 昭夫



* デイン新司祭、ベトナムの青年たちと共に。



Xmas12/24 (日) 19:00



* 今年はヨセフ役の愛花ちゃんとマリア役の結花ちゃんでした。ありがとう！



☆天使幼稚園児もクリスマスミサに与りました。
神父さまより祝福をいただいて・・・。

降誕祝賀会と三位一体の聖体宣教女会 のお別れ会 12/25 (月)



＊三位一体の聖体宣教女会のシスターの皆さま、長年に渡って私たち教会のため、奉仕して下さったことに感謝いたします。ありがとうございました。これからは、私たちが教会を支えていきますように・・・お祈りください。



新年の抱負 (成年)

☆ 今年、5年生として、学校でも習い事でも成長できたと思います。でもまだまだ成長できると思っています。

新年の目標は2つあります。1つは、学校での目標で、成績表の「良くてできる」を20個以上にすることです。テストでいい点を取ればいいし、日々の生活態度でも成績が変わると思うので、とにかく成績を良くしたいです。

もう1つは、習い事の目標で、4割以上になるようにがんばろうと思います。

この2つを目標にして、新年も更なる成長に向けてがんばりたいです。

菊野 晴三 (小学生)

☆ 何回目かの年女です。子ども中心の世界で、毎日何かに追われ、独身時代に仕事をしていた頃とはまた違う忙しさの中に、日々神様のお恵みを感じることがあり、感謝とともに、ハッとさせられることがしばしばあります。母親としてまだまだ未熟な私にとって、神様から贈られた大切な子どもたちへの向き合い方は、毎日のテーマであり、今年もこれは続いていくでしょうし、妻としては、我が家のもう1人の大きな子どもである夫(笑)にも頭を悩ませる日々が続くと思います。今年ごミサに三位一体のシスターたちの姿も見えなくなり、やはり昨年までとは違う細江教会になることでしょう。私たちも一家で大変お世話になり、感謝してもしきれないほどです。これも神様のお恵みですので、いただいたお恵みを、子どもたちに返していくことと、若い(?)力で少しでも教会のお役に立って、お返しできたらと思います。今年も親子どもども宜しく願いいたします。

カスタンニエーダ・靖代

新成人の紹介

学生さんなので、勉強に忙しいところをぬって、いつも侍者も勿論のこと、教会のお手伝いを快くしてくださいませ。20歳、おめでとう！

☆ 20歳になり、大人になったという実感は、まだありませんが

自身に責任が問われる年齢になりました。

これからさまざまな困難や高い壁が待ち受けているかもしれませんが、良い方向にいけるように努力していきたい



いと思います。

これからも、よろしくお願ひします。

柿本 香菜子